

表3-1-8 無業者タイプ別性別 無業期間

		6カ月未満	6カ月～2年	2年以上	不明	合計
求職型	男性 度数	12	15	9	1	37
	%	32.4	40.5	24.3	2.7	100.0
	女性 度数	11	13	4	2	30
	%	36.7	43.3	13.3	6.7	100.0
男女計 度数		23	28	13	3	67
%		34.3	41.8	19.4	4.5	100.0
非求職型	男性 度数	9	9	9	1	28
	%	32.1	32.1	32.1	3.6	100.0
	女性 度数	5	12	11	2	30
	%	16.7	40.0	36.7	6.7	100.0
男女計 度数		14	21	20	3	58
%		24.1	36.2	34.5	5.2	100.0
非希望型	男性 度数	1	7	9	0	17
	%	5.9	41.2	52.9	0.0	100.0
	女性 度数	3	7	4	1	15
	%	20.0	46.7	26.7	6.7	100.0
男女計 度数		4	14	13	1	32
%		12.5	43.8	40.6	3.1	100.0
タイプ計	男性 度数	22	31	27	2	82
	%	26.8	37.8	32.9	2.4	300.0
	女性 度数	19	32	19	5	75
	%	25.3	42.7	25.3	6.7	100.0
男女計 度数		41	63	46	7	157
%		26.1	40.1	29.3	4.5	100.0

## 第6節 各タイプの現在の状況

本節では、無業者が現在主に従事している活動内容や、自分の現状への意識について検討していく。以下ではまず現在の活動内容をタイプ別・性別に概観した後、それぞれのタイプの中で各活動内容に従事している者の特徴を詳しく見ていくことにする。

### 1 現在の活動内容

現在の活動内容として用いる質問項目は「自立調査」の間34（無職現状）である。この質問では「実際に日頃おこなっていること」として13の項目をあげ、その中からいくつでも選択してもらう形で尋ねている。無業者サンプル157名のうち、13項目の中から2項目以上を選択した者が15名存在するが、うち13名は「求職活動中」という項目に加えてそれ以外の1～2項目を選択した「求職型」であり、残る2名が「非求職型」である。そこで、「求職型」の中で複数項目を選択している13名についてはすべて「求職活動中」とし、「非求職型」で複数項目を選択した2名については回答内容からして活動内容としての重要度の高いと考えられる項目のいずれかに割り振ることにより、もともと多肢選択である質問を単一選択形式の変数へと加工した。

その結果、「求職型」については「独立・開業準備中」の2名（いずれも女性、専門学校卒、就労経験有り、27歳と29歳）を除いて他はすべて現在の状況は「求職活動中」となる。

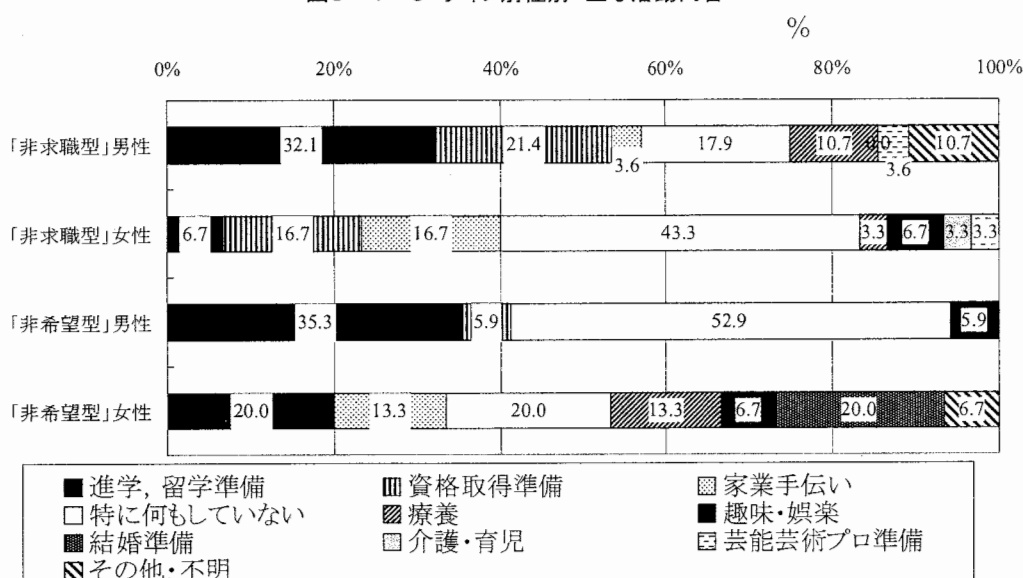
また「非求職型」と「非希望型」について、男女別に活動内容を示したものが図3-1-3である。「非求職型」男性及び「非希望型」男性については、いずれもほぼ3人に1人が現在「進学・留学準備」を行っていることが共通している。しかし両者の相違は、「非求職型」男性では「資格取得準備」が21.4%、「療養」が10.7%、「その他」（1名の「不明」を含む）が10.7%と分散しているのに対し、「非希望型」男性では52.9%と過半数が「特に何もしていない」と答えている

ことである。「特に何もしていない」比率は「非求職型」女性でも43.3%とかなり多い。他方で「非希望型」女性は多様な項目に分散している。

以上の結果、現在の活動内容の傾向としては、多様な項目に分散している「非求職型」男性と「非希望型」女性、「特に何もしていない」に相当の集中が見られる「非求職型」女性と「非希望型」男性という特徴が見いだせる。

以上を踏まえて次項からは、各タイプにおいてそれぞれの活動に従事している者が、具体的にどのような経歴や意識を持っているのかについて検討していくことにする。

図3-1-3 タイプ別性別 主な活動内容



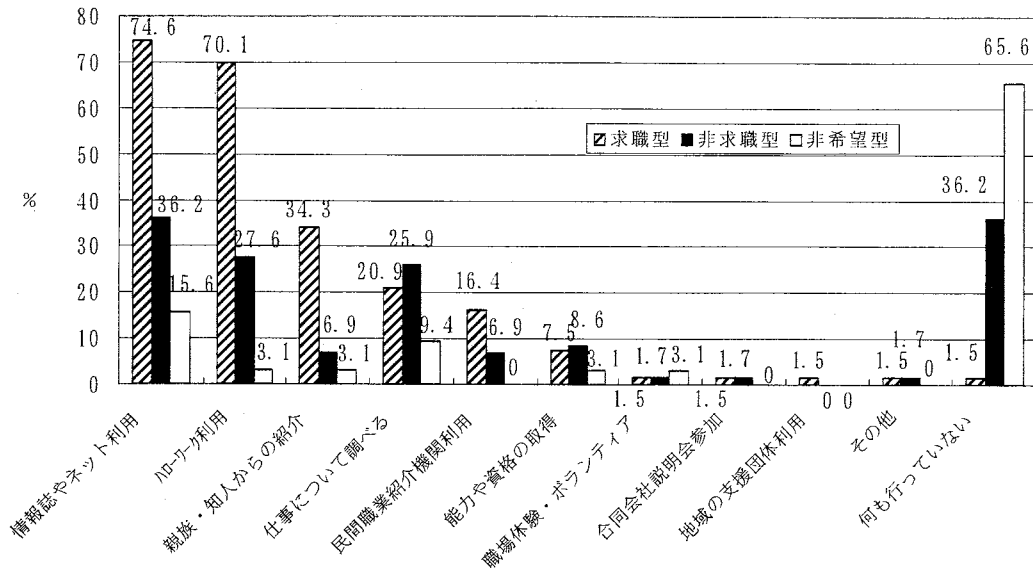
## 2 「求職型」

先述のように、「求職型」の中では2名の「独立・開業準備中」を除いて他はすべて「求職活動中」である。「自立調査」では、「求職型」に限らず無業者全体に対して、仕事に関して現在行っている活動内容を尋ねている（問42）。その結果をタイプ別に示したものが図3-1-4である。他のタイプと比べてときの「求職型」の特徴は、「就職情報誌・新聞・インターネットなどを見る」及び「ハローワークなどの公的な機関を利用する」がいずれも70%を超えていること、また「親族や知人に仕事を紹介してもらおう」も34.3%と他タイプに比べて多いことである。「民間職業紹介機関を利用する」者も16.4%と、他タイプよりは多い。しかし「関心のある仕事について調べたり話を聞いたりする」比率はむしろ「非求職型」の方が高い。これら以外の項目を選択した者はいずれも極めて少数である。

また、就労への意識を見ると、「求職型」の中で男性の70.3%、女性の66.7%は「希望する仕事があれば働きたい」、男性の29.7%、女性の26.7%は「希望と違う仕事でも働きたい」と答えている。「希望と違う仕事でも働きたい」と答えた比率は、「非求職型」の男性では39.3%（女性は23.3

%) であり、男性の場合はむしろ「求職型」よりも「非求職型」の方が希望と違う仕事でも就きたいという意欲を持つ者がやや多い。なお「求職型」の中で上記の回答傾向と、現在の家庭の暮らし向きとの間には明確な関連が見られなかった。

図 3-1-4 無業タイプ別 仕事に関する活動内容



他方で、「働きたい」と答えた者に対して働きたい理由を尋ねた結果を図3-1-5で見ると、「求職型」は「非求職型」に比べて金銭的必要性が高く、仕事内容面でのこだわりは少ないことが読み取れる。そして、仕事をしていないことに対してどれほどあせっているかについては、「求職型」では「あせっている」31.3%（「非求職型」24.1%、「非希望型」6.3%）、「どちらかという」とあせっている44.8%（「非求職型」31.0%、「非希望型」3.1%）と、これらの比率が他タイプよりも高い。この点では「求職型」は「非求職型」よりも就労に対して切実な意識を持っているといえる。

続いて仕事に関して困っていることの内容を他のタイプと比較すると（図3-1-6）、「求職型」では「希望する仕事の求人が少ない」（41.8%）、次いで「自分の能力・適性がわからない」（37.3%）の2項目において、他のタイプよりも選択比率が高い。それに次いで「希望する労働条件の求人が少ない」も29.9%を占め、「人間関係に自信がない」比率も17.9%で他のタイプよりやや高い。「求職型」でこれらの比率が高いことは、就労を切実に望んでいることの裏返しであると考えられるが、自分の能力・適性の把握や人間関係への不安などが、就労に最も積極的であるはずの「求職型」にとってむしろ大きな問題となっていることがうかがえる。

図 3 - 1 - 5 無業タイプ別 働きたい理由

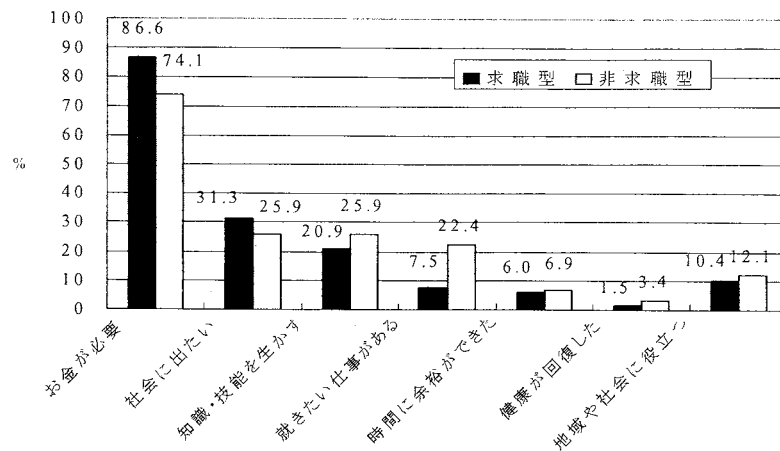
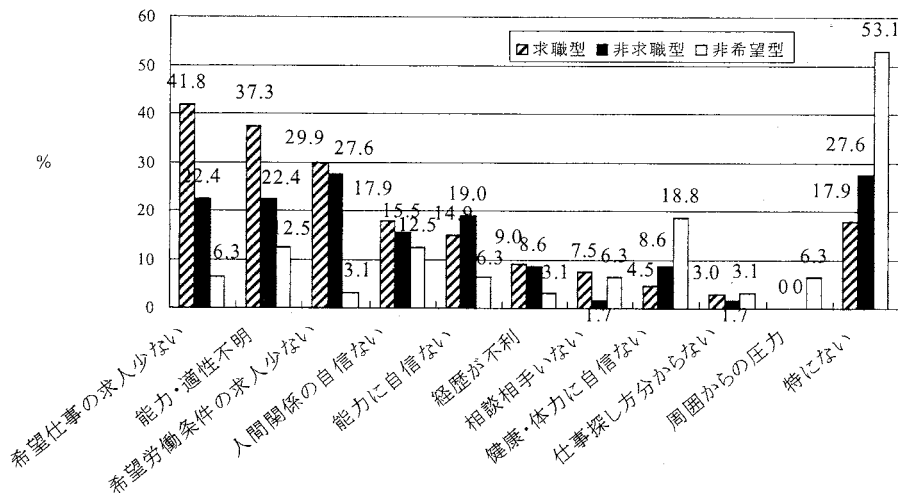


図3-1-6 無業タイプ別 仕事で困っていること



### 3 「非求職型」

#### (1) 男性

##### ア「進学・留学準備」

先述のように、「非求職型」男性の32.1%（9名）は「進学・留学準備」中である。うち4名は普通高校卒の19歳で典型的な「浪人」であると思われる。

他の5名の年齢構成は、平均年齢21.0歳であり、学歴は普通高校中退、全日制専門高校卒業、理工系大学卒業、理工系大学中退、学歴不明が各1名ずつとなっている。5名中2名は正社員